

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	総合演習		
英文授業科目名	Comprehensive Seminar		
開講年度	2008年度	開講年次	1年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間・夜間主コース
授業の方法	演習	単位数	2
科目区分	教職科目-総合演習-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	井上 久祥		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
inoue@juen.ac.jp	<a href="http://www.juen.ac.jp/inoue/index.html">http://www.juen.ac.jp/inoue/index.html</a>

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>(a) 主題：「総合演習は、人類に共通する課題又は我が国社会全体にかかわる課題のうち、一以上のものに関する分析及び検討並びにその課題について幼児、児童又は生徒を指導するための方法及び技術を含むものとする（教育職員免許法施行規則、第六条備考七）。」とある。つまり、新しい時代にふさわしい「実践的指導力」をもった教員の養成がねらいである。</p> <p>(b) 達成目標：主体的な課題解決能力を自らが「実地調査・見聞」「分析・検討」「討論・発表」を通じて、体得し、それを児童・生徒が学べるよう、授業として教授する方法と技術を身につける。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
「なし」

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
他の教職関連科目

<b>【教科書等】</b>
<p>参考書：</p> <p>[1] 文部科学省（2002）新「情報教育」に関する手引  <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/020706.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/020706.htm</a>.</p> <p>[2] 岡本敏雄,山極隆（2000）総合的な学習の時間の理論と実践情報編,実教出版株式会社,東京都.</p>

[3] JAPET社団法人(2007) 日本教育工学振興会ICT教育環境整備ハンドブック, 図書印刷株式会社, 東京都.

【授業内容とその進め方】

(a) 授業内容

学校現場で実際になされている「情報教育」の実践事例を題材とし、演習を通じて、児童や生徒の「問題解決能力」及び「情報活用能力」を育成する授業の設計・実施・評価・改善の実際について体得していく。

対象とする主な項目は以下の通りである。

導入

- ・「問題解決能力」「情報活用能力」についての理解

授業実践事例による「教職の理解」

- ・情報教育の授業単元計画書
- ・情報教育の授業実践についてのカテゴリー分析
- ・児童・生徒が自ら「考える」授業～教授論の視点から～
- ・情報の見方・考え方を促す教材～学習論の視点から～

「情報教育」のための授業の設計・実施・評価

- ・見方・考え方を促す提示教材と授業場面の設計～模擬授業の準備～
- ・模擬授業についての相互評価及び自己評価

「教育の情報化」のための学校の評価・改善

- ・教育の情報化と情報化推進リーダーの役割
- ・情報化推進リーダーに対するインタビュー事例
- ・学校の情報化要因についての分析と考察

(b) 授業の進め方：

演習の段階に応じてワークシートを配布する。各自がワークシートへ記入をしながら成果物を完成させていく。なお、授業中の演習においては、コンピュータを使用すると効率的に作業ができる場面が多くある。自分のIDとパスワードを確認し、必要時には円滑にコンピュータの利活用ができるようにしておくこと。

(c) 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業時間内に完成しなかった演習については、各自が時間外にも演習を行ない成果物を完成させること。評価は最終的に提出された成果物で判定する。授業時間外の学習で成果物の完成度がさらに高められることを期待する。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

- (a) 評価方法：演習の過程および結果として、得られた成果物について、次のように評価する。
- ・演習の成果物（10種類の成果物を各10点満点で採点し、その合計点数を評価とする）  
演習の成果物は集中講義期間終了の後、後日レポートとして提出する。
  - ・出席点  
欠席半日につき5点の減点とする。正当な理由を付した届けがある場合には、この限りでない。なお、遅刻や欠席した場合、演習のねらいや作業の手順を理解せずに演習に臨んでも、おそらく十分な学習効果を得ることができないと考える。演習のための説明を講師へ求めること。
- (b) 評価基準：以下の到達レベルをもって合格の最低基準（各成果6点/10点満点）とする。
- 成果1：「情報活用能力」についての理解  
配布資料の内容を踏まえて「情報活用能力」が説明されているか
- 成果2：情報教育の授業単元計画書（授業レシピ）  
グループでの話し合いが反映され、かつ、授業の展開の記述に整合がとれているか
- 成果3：情報教育授業のカテゴリー分析の結果と考察  
グループでの話し合いが反映され、かつ、分類や解釈に整合がとれているか
- 成果4：児童・生徒が自ら「考える」授業場面についての考察  
紹介事例についての理解や疑問の気づきがなされ、それがシートに記述されているか
- 成果5：見方・考え方を促す授業場面  
紹介事例を踏まえて子どもが自ら「考える」ために授業の展開が工夫されているか
- 成果6：見方・考え方を促す提示教材と授業場面の設計～模擬授業の準備～  
双方向性を生む教材への仕掛けと共同思考のための授業の展開が工夫されているか
- 成果7：模擬授業の相互評価及び自己評価  
模擬授業に参加し、各発表者に適切な評価やコメントを送っているか
- 成果8：情報化推進リーダーの役割についての模式図  
資料の要点がまとめられ、情報化コーディネータの役割と対比して記述されているか
- 成果9：情報化推進リーダーに対する聞き取り調査用紙  
5つの要因に該当する適切な内容がインタビューより抽出できているか
- 成果10：学校の情報化要因についての二軸法分析図と方略図  
二軸法図解によって要因の関係が整理されているか、  
方略図中に二軸法図解での関係性が表わされているか

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等は電子メールで受け付ける。

【学生へのメッセージ】

真に教職を志し、実践的な指導力を身につけることに意欲をもった学生の受講を期待する。

電気通信大学 平成20年度シラバス

【その他】
「なし」